09年度の国内旅行は2.5%減

財団日本交通公社　見通し

財団法人日本交通公社は12月17日、東京・大手町の経団連会館で、18回目となる「旅行動向シンポジウム」を開いた。09年の旅行マーケットについては、国内旅行は前年比2・5%減、海外が同5%減、好調だったインバウンドも同3%減になると予想し、旅行業界にとっては厳しい1年になるとの見通しを示した。

旅行動向シンポ　業界、厳しい1年

09年の国内旅行マーケットは、①大きなイベントがない②衆院選は若干マイナスに作用③景気低迷から付和雷同層の市場参加が減少④燃料価格低下や近場・低価格志向から旅行単価も減少――と分析。宿泊を伴う国内旅行は08年見込み（前年比1%減）を下回る数字に。

同財団がオピニオンリーダー層に対して実施した調査によると、09年の1回当たりの旅行費用は「横ばい」が5割強を占めたが、「増える」18%に対し、「減る」は27%あった。また、旅行費用の抑制策は「ネット予約で抑える」が47%で、次いで「安い旅行商品を探す」43%、「回数を減らす」40%の順。

円高の追い風が吹いている海外旅行だが、09年は前年の1600万人を下回る1520万人（5%減）と予想。「最後まで伸び続けていた60歳代以上も金融危機でマイナス転化し、（金融危機の実体経済波及による）50歳代以下の勤労者世帯への影響もこれから拡大する」（同財団）と見る。

一方、09年のインバウンド旅行者数は825万人（同3%減）とした。国別に見ると、▽韓国はウォン安の影響が続き同12%の大幅減▽台湾は通貨変動の影響は比較的小さく、同12%の小幅減▽中国は経済の拡大が続き下半期から増加、同3%増▽米国は経済低迷が続き、同6%減――と見込んでいる。

シンポジウムではまた、「料理人の世界観が人を呼ぶ時代」をテーマに、レストラン「モニエール」を経営し、オーベルジュ「マッカリーナ」オーナーシェフでもある中道博氏が食と観光について意見を述べた。同財団の小林英俊常務理事と久保田美穂子主任研究員がコーディネーターを務めた。

【内井高弘】

09年のマーケット予想

旅行者数	2008年見込	2009年予測
国内旅行（宿泊旅行）	−1.0%	−2.5%
海外旅行	1,600万人 −7.5%	1,520万人 −5.0%
インバウンド	852万人 +2.1%	825万人 −3%

体験型観光プラン　観光客の評価も上々

指宿市

鹿児島県・指宿温泉に滞在型の宿泊客を呼び込もうと、12月23日から26日までの期間、指宿市観光協会が事務局を務める指宿スパヘルス事業が体験型観光プランを実施した。比較的閑散期になりがちな正月前の期間に企画。指宿ならではの食、歴史、自然を体験できるメニューをそろえ、長期滞在でも楽しめる温泉地としての魅力をアピールした。

例えば食を楽しむプランでは、さつま揚げの調理を、材料の小アジを手でさばく工程から客自身が行い、できたてをその場で賞味。特産のそらまめの収穫体験も行った。

福岡市内から参加した60代の女性は「指宿に来ないと食べられない珍しいものを食べることができた。おいしかった」と満足げに語っていた。

指宿市観光協会によると市内14施設の今年4～10月の宿泊客は、大河ドラマ「篤姫」効果などもあり、42万8962人と前年比11・5%増加した。「今後は大河ドラマ終了後の取り組みの目玉として、プランを通年化したい」（ホテル秀水園・湯通堂温社長）。

指宿ならではの食材を使った料理を味わう観光客ら。「おいしかった」と評判も上々

プランへの参加は、指宿白水館、指宿シーサイドホテル、指宿コーラルビーチホテル、旅館吟松、ホテル秀水園、指宿海上ホテル、指宿いわさきホテル、指宿フェニックスホテル、指宿ロイヤルホテルの9軒のいずれかに宿泊することが条件。

このほか、砂むし温泉の体験と地元の食材を使った昼食バイキングを組み込んだ商品はJTBで商品化され、23～25日と24～26日の期間で、計160人を集客するなどの成果が上がったという。

地域発の旅造る人材養成講座

KNTら開催

KNTと日本余暇文化振興協会、聖徳大学生涯学習研究所は1月24、25の両日、岩手県陸前高田市で、地域の文化を生かした創造的な旅づくりの担い手を育てる講座「旅のもてなしプロデューサー養成講座」を開く。旅行の企画やまちづくりに関心のある人に参加してもらい、旅を通した地域活性化の後押しにしたい考えだ。

今回開催するプロデューサー養成講座「三陸の旅から学ぶもてなし体験研修」では、観光の意義やまちづくり、観光ガイドやもてなしの手法などを講義形式で学ぶ。三陸のエコミュージアムの取り組みについての事例研究やまち歩き実習なども盛り込み、より実践的な内容とした。

参加費は3万6千円、募集人数は40人。申し込み締め切りは1月20日。問い合わせは、聖徳大学生涯学習研究所内同講座研究委員会（☎047・369・5665、ファクス同）まで。

旅のもてなしプロデューサー養成講座は07年3月に第1回を千葉県松戸市で実施し、今回が4回目の開催。09年度は、千葉県松戸市や館山市での講座を予定している。

Q&A　ネット時代のインバウンド〈18〉

小野秀一郎

レンタカー利用増　活用する方法は

Q 北海道では夏季にレンタカーの利用が増えているそうですが、これは全国的に広がるのでしょうか。何かこの動きを活用する方法はないでしょうか。

（宮城県・温泉旅館・25室・外客受け入れ月10組）

A 外国語での日本の観光情報がインターネット上で流通し、日本へのリピーター層が増えるにつれ、日本での旅行形態も多様化してきますから、レンタカーもその1つの大きな流れとなり得ます。

ジャパンレールパスというJR線乗り放題のパスを使用した鉄道利用の移動が主流ですが、これからは日本人と同様に、より自由度の高い旅行をする外国人も増える傾向となるでしょう。もちろん宿泊業としてこの流れをチャンスととらえることができます。

現状では外国人旅行者は日本人と違い、JR駅からのアクセスの良さを特に気にしており、バスがあっても本数が少なく遠い場合は宿泊自体を断念する場合があります。対応策として自社の外国語ホームページ（HP）上でレンタカーの店舗情報、車でのアクセスも容易である旨を記載することで、サイトでの滞留時間が長くなり、貴館への関心も高めるきっかけとなります。

また、外国語版予約サイトにも同様の情報追加をしておきましょう。全国200軒ほどの弊社クライアントの中でもレンタカー利用の情報を記載している施設はいまだ少ないのですが、近隣施設との差別化のために今後はHPでの情報拡充を勧めるつもりです。

最近では乗り捨てをする外国人旅行者もいますから、到着したレンタカー店舗に施設が近い場合は、あらかじめ店舗のスタッフと情報交換をしておき、パンフレットなどを置かせてもらうとよいでしょう。

（実践！インバウンド代表、米国MBA〈経営学修士〉・国内旅行業務取扱管理者、www.jisseen-inb.com）

「HITOU」国際語に

09年度に多言語サイト

秘湯守る会

出席会員を激励する佐藤会長と役員

朝日旅行協力会の1支部である「日本秘湯を守る会」（193会員、会長＝佐藤好億・大丸あすなろ荘社長）は12月17日、神奈川・湯河原温泉の山翠楼で08年度の総会を開き、「HITOU」を国際用語にするための海外への情報発信などを盛り込んだ09年の事業計画を決めた。ウェブ予約サイトの充実と併せて、英語など3カ国語に対応したサイトの製作を進め、HITOUの世界的認知度向上を目指す。

外国語版サイトは英、中（繁体・簡体字）、韓の3カ国語を予定。4月上旬をめどに製作する。多言語化のための費用を会員に別途求めることはせず、本部の費用負担だけで事業を展開する考えだ。

佐藤和志副会長（秋田・鶴の湯温泉社長）は草津温泉の進める「ONSEN」国際語化の取り組みに触れ、「ONSENと違い、周辺の環境や生活、文化を守っている秘湯の特性を発信していくべき」と話し、HITOU国際語化の重要性を訴えた。

このほか総会では、09年度の事業として、ウェブ予約サイトへの宿泊プラン掲載の推進や「次世代研修会」などの各種研修会の開催、全会員が加入することとなっている「温泉学会」の開催支援の積極化を決議。役員改選では、佐藤会長の続投が決まった。

「スタンプ事業推進で厳しい1年打破を」　佐藤会長が強調

総会であいさつした佐藤会長は、現在の景気不安に触れた上で、「今までのように『なんとかなる』ではだめな状況だ。厳しい1年となるだろうが、心を1つにしてがんばろう」と述べ、同会の中心事業であるスタンプ事業に会員挙げて注力することによる難局の打破を訴えた。

宿泊ごとに押印するスタンプを10個集めた宿泊者を、希望する会員宿に1泊招待するスタンプ事業では現在、毎年15万冊のスタンプ帳を発行。08年度は約1万6千人が無料で同会員宿に宿泊したという。

10～12月　国内旅行DIが悪化

JATA調査

景気後退や安近短で

日本旅行業協会（JATA）が四半期ごとにまとめている「旅行市場動向調査」によると、10～12月の国内旅行DIは、景気後退の影響によって3カ月前（7～9月）のマイナス6から、前回の見通しのマイナス9を下回って、マイナス16とさらに悪化した。燃油サーチャージなどの影響で海外旅行からのシフトはあるが、安近短志向がより鮮明となり旅行単価が低下している。

方面別に見ると、甲信越は3カ月前との比較で19ポイント減のマイナス42と大きく後退。北海道は15ポイント減のマイナス18、愛知・岐阜・三重は14ポイント減のマイナス44、東京（含む横浜、浦安）は11ポイント減のマイナス3、奄美・沖縄も11ポイント減のマイナス8とそれぞれ2ケタの低下となった。前年同時期を上回るのは東京（含む横浜、浦安）のみで、京阪神、愛知・岐阜・三重、東北は大きく下回っている。

「今後も景気の低迷が続けば、旅行市場の好転はますます遠のくとの悲観的な見方が強い」とJATA。3カ月後（1～3月）は、奄美・沖縄が わずかに上向く以外は、横ばいもしくは低下の見込みで、特に北海道、東北、京阪神は落ち込み幅が大きい。

10～12月の海外旅行DIは、金融危機の影響と依然高額な燃油サーチャージにより3カ月前より2ポイント減少しマイナス64。3カ月後はマイナス69となる見込み。

JATAの旅行市場動向調査では、各質問事項に対し「良い」「普通」「悪い」「取り扱っていない」で評価を求め、DI（ディフュージョン・インデックス）という景気動向指数を発表している。DI値の範囲は、100（すべての回答が「良い」）からマイナス100（同「悪い」）の間となる。593社を対象とし、233社から回答を得た。

訪日ツアー商品　韓国語でも販売

JTB

JTBは12月18日、訪日外国人向け旅行サイト「ジャパニカン・ドットコム」の韓国語版で、訪日ツアーブランド「サンライズツアー」の韓国語でのオンライン販売を開始した。これまで英語のみでの扱いだった。

沖縄ならではの長期滞在型プラン

JTB

JTBは12月16日、沖縄の特色を生かした長期滞在型プランを発売した。ゴルフや英会話の上達、原生林での癒し、といったテーマで1週間程度滞在する。

商品名称は「沖縄型ロングステイツーリズム夢叶う、大人旅」。ゴルフプランでは、暖かく快適な環境でプライベートレッスン。癒しプランは、やんばる地域の豊かな自然を森林セラピーなどでじっくり味わう。2月1～28日の設定。

沖縄県が推進する「ニューツーリズム形成促進事業」の一環として実施する「沖縄型ロングステイツーリズム推進事業」のとして商品造成した。

首都圏プランに工場見学コース

JTB

JTBは、首都圏での日帰りオプション商品で工場見学のコースを盛り込んだ。「産業集積地としての一面を持つ首都圏の魅力にスポットを当てた」（同社）。

12月12日に発売した商品「おとなの東京探訪」（冬版）では、千葉のコース「身近な鉄について学ぶ」を設定。JFEスチールの東日本製鉄所で鉄の精製工程を見学する内容。「ガイドと歩く川崎大師ご利益巡り」コースは、これまでの町歩きに味の素の川崎工場の見学を追加した。

コース数は、前回の秋版に比べ3コース増やし計23コース。販売目標人数は800人。

カーボンオフのスキーリフト券

JTB中部

JTB中部は12月20日、カーボンオフセットを付けたスキーリフト券を発売した。マイカー利用などで発生するCO²の削減が目的。岐阜・福井県の11カ所のスキー場で設定した。

スキー券には食事券とハイウエイ買物券を組み合わせている。代金の一部を約3キログラムのCO²を相殺できる自然エネルギーの購入費に充てる。

JTBの田川社長が北京アドバイザーに

JTBの田川博己社長がこのほど、中国・北京市人民政府の要請を受けて、観光振興のアドバイスをする「北京市旅遊産業発展高級顧問」に就任した。北京市は世界経済の減速などの影響で全世界からの観光客が減少傾向にある。田川社長は、長年の旅行業界での成果と豊富な経験が評価されたという。同顧問は4人が選ばれたが、日本人は唯一。任期は2年間。

観光業活性化　ホスピタリティレポート◀100▶

西川丈次

「社長、今日一番できなかったのは俺だったな。悔しい。今度は絶対にうまくやるからな」。あるドライバーさんの言葉です。先日開催した観光バスドライバーの研修が終了したその夜に、あるドライバーさんから社長宅に電話があったそうです。

社長は「今日の研修の苦情かな」と、正直思ったそうです。恐る恐る電話に出てみると、少し酔った声で前述の言葉が耳に飛び込んできたというのです。その時に、社長は「これでいける」と確信を持たれたそうです。

観光バス会社さんが自社で「募集旅行」事業をスタートしようと、数カ月前から研修をしてきました。その研修の1つの区切りとして実施した現場研修の後に起こった出来事でした。研修中のバスの中、最後尾に座られたドライバーさんの頭が、一番前に立ってマイクを持つ私の視界から消えました。

「社長、今日一番できなかったのは俺だったな。悔しい。今度は絶対にうまくやるからな」。

席を移られたのかな、と思い話しながら人数を確認してみましたが、やはり1人足りません。その時に私が思ったことは、「一番後ろの席で寝てるな」でした。

その後、1人ずつ前に出て、マイクを持ってあいさつをしてもらう研修書かれていたのです。そこてこられたのです。「良いですよ」といった時に、認してみましたが、やはり1人足りません。その時に私が思ったことは、「一番後ろの席で寝てるな」でした。

その後、1人ずつ前に出て、マイクを持ってあいさつをしてもらう研修書かれていたのです。そを持っていただきました。決して上手ではありません。しかし、「こうしたほうが良い」と他の方に申し上げたことも、しっかりとメモを取っていて、自分の順番の時には、うまくいかなくてもやってみようとされるのです。その姿を見ては、自分の心の中にあるのです。

（観光ビジネスコンサルタンツ）

真のプロになるためのかぎ

うです。姿が見えなかったのは、寝ていたのではないのです。私や同僚の方が話すことを一生懸命にメモされていたのです。

何か胸が熱くなるものを感じた瞬間でした。その会社でもベテランのドライバーさんです。他のドライバーも一目置く超ベテランの方です。正直に申しますと、この方に「これまでのやり方を変えて、新しいやり方を実行してください」と言っても難しいかな、と思っていた人です。

その後も何度かマイクに入りました。そして、その姿が見えなくなっていたドライバーさんの順番がきました。その方は方が話すことを一生懸命にメモされていたのです。

その瞬間、ビックリしました。その紙には決してきれいな字ではないですが、たくさんの文字が書かれていたのです。そライバーも一目置く超ベテランの方です。正直に申しますと、この方に「これまでのやり方を変えて、新しいやり方を実行してください」と言っても難しいかな、と思っていた人です。

その後も何度かマイクを持っていただきました。決して上手ではありません。しかし、「こうしたほうが良い」と他の方に申し上げたことも、しっかりとメモを取っていて、自分の順番の時には、うまくいかなくてもやってみようとされるのです。その姿を見ては、自分の心の中にあるのです。

「プロ」と呼ばれる方々がいらっしゃいます。真の「プロ」とは。それは、経験や技術ではなく、心の中に「プロになるぞ」という強い意思を持った方を言うのだと思ったのです。

誰もが「プロ」と呼ばれる方になれる訳ではないかもしれません。しかし、「プロになるぞ」と心に強い意思を持った方だけに、真の「プロ」になるための重い扉が開かれるのだと思うのです。

そして、その扉のかぎは、自分の心の中にあるのです。

（観光ビジネスコンサルタンツ）

栃木女将の会

都副知事らを訪問　県の観光をアピール

栃木県は12月16日から4日間、東京都庁内の全国観光PRコーナーで、『やすらぎの栃木路』観光・物産展in東京」を開いた。女将の会（伴玉枝会長＝本家伴久萬久旅館）も参加し、来県を呼びかけた。

女将の会メンバー15人は16日、来庁者や都職員に県の観光名所や名産品のパンフレットを配布、魅力をアピールするとともに、菅原秀夫副知事を表敬訪問＝**写真**。その後JR東日本の清野智社長とも面談した。

17日にはJTBやKNT、東武トラベル、はとバスなどを訪ね、県への送客や宿泊商品の造成を求めた。

「天地人」の世界満喫

楽天トラベル

新潟の旅情報提供

楽天トラベルは12月19日から、同社が運営する旅行総合サイト「楽天トラベル」で、09年1月に放送が始まるHNK大河ドラマ「天地人」の舞台の1つである新潟県の旅情報を紹介するコンテンツを始めた。コンテンツ内で観光地情報の収集から周辺の宿泊施設の検索、予約までできるようにすることで、新潟県を初めて訪れる人でも天地人の世界を満喫できるようにした。

新コンテンツ「直江兼続の足跡を訪ねる旅」は、天地人の主役・直江兼続にゆかりのある新潟県内の史跡や関連する観光情報を掲載し、旅行ガイドとして使えるようにした。同コンテンツから直接、周辺宿泊施設やレンタカー、高速バスを予約することもできるため、「ユーザーが旅行プランを自由に作成できる」（同社）。

また、書籍販売サイト「楽天ブックス」の直江兼続関連本の購入ページや、通信販売オンラインショップ総合サイト「楽天市場」内にある各県ごとの名産品を紹介するコンテンツ「まち楽」の新潟県ページともリンクさせることで、天地人に興味を持つ層の取り込みを図る。

同社では今後、直江兼続にゆかりの深い、山形、宮城、福島各県の旅行・宿泊情報を集めたコンテンツの提供を予定している。

09年度はインバウンド強化

トップ会方針

トップツアーの運輸、観光契約施設で組織するトップ会（阿野康春会長）はこのほど、東京渋谷のエクセルホテル東急で08年度常務理事・活性化委員長合同会議を開き、09年度はインバウンドへの対応を強化していく考えを示した。トップツアーからは石川邦大社長らが出席し、08年度の事業報告と09年度の国内旅行部の方針と基本戦略を説明した。

合同会議の冒頭、阿野会長は「国内の客が横ばいだが、全国各地で外国人旅行者が増えている」と述べた上で、「09年度はインバウンドの受け入れについて考えていきたい」とあいさつをした。

石川社長は社長に就任した1年を振り返り、顧客満足度ナンバーワンの会社になるために1年間取り組んできたことを報告。インバウンドとネットへの対応が喫緊の課題とし、09年度についてはトップ会会員の意見を聞きながら取り組む姿勢を示した。

山上光裕国内旅行部副部長は、国内旅行部の09年度事業について説明。重点施策の1つに、インバウンドの拡販を挙げた。09年度は、海外エージェントと連携し、訪日団体の受注拡大に向けて強化する。

SL人吉の火入れ式

JR九州　4月25日に復活運転

JR九州は12月16日、復活工事を完了したSL人吉の火入れ式と安全祈願祭を北九州市の同社小倉工場で行った＝**写真**。式には石原進社長、安田宏正熊本県副知事、人吉市の田中信孝市長、九州運輸局の矢野忠鉄道部長ら約60人が出席。

石原社長は「SLは大変な人気があり、肥薩線沿線の魅力が高まる。人吉球磨の皆さんにかわいがっていただきたい」とあいさつした。

SL人吉は05年8月まで豊肥線を走った「SLあそBOY」を修復したもの。JR鹿児島本線・肥薩線の熊本～人吉間で今年4月25日に復活する予定。運転開始後は、11月までの土・日曜やゴールデンウイーク、夏休みなどに1日1往復する。SLと3両の客車で定員は全車指定席で132人。